

笑顔あふれる！ にこにこの会

2市8町社協が主催（今年度は箱根町社協が幹事）し、身体障がい者の車イスダンス交流「にこにこの会」を6月10日に開催しました。

震災を鑑み一時は中止も検討されましたが、皆様の笑顔にお会いしたくて、晴れて開催することができました。

西さがみ矢車草の会員に笑顔で迎えられ、参加した障がい者の方々も楽しそうでした。皆様の熱気で、会場が暑いこと：着ぐるみ隊が苦戦するほどでした。

やはり「笑顔」が一番！来年もまた、元氣にお会いしたいですね。



サービスセンター通信 102

はこね社協サービスセンター訪問介護事業所では月に2回のヘルパーミーティングを行っています。

その中では、ヘルパー間の意識を統一するために訪問介護利用者様に関する情報交換や介護技術・介護倫理に関する勉強会も実施しています。

5月のミーティングでは車イス介助の応用編としまして、2名の介助者で車イスの利用者様を無理の無いように長い階段を上り下りする介助方法の実技研修を行いました。

この方法を用いれば介助者、利用者様ともに負担が少なく介助を行なうことができます。

当事業所はキャリアのある女性ヘルパーがほとんどです。短時間で全員が安全な介助技術を学び、再確認を図りました。写



※この介助方法はあくまで応用であり、経験を積んだヘルパーが確実な基本練習の繰り返しで行っています。危険ですので絶対に真似をしないでください。

真では車イスに人形を乗せて研修していますが、この後に実際に職員を乗せて行いました。このようにヘルパーさんたちは訪問介護業務以外でも日々、利用者様方の安全・安心のため努力をしています。また、はこね社協サービスセンターではこのような勉強会を継続して行うことで、より介護技術の高い事業所を目指しています。

被災地ボランティアへのインタビュー

3月11日東日本大震災の被災地で、社員とともに瓦礫の撤去活動を行なった小林欣也さん（株式会社箱根緑化 代表取締役）より、現地でのお話をお伺いしました。



●回答者 小林欣也さん（以下…小）
●質問者 社協職員（以下…社）

【社】まず、活動のきっかけは何でしたか。

【小】テレビで、手作業で瓦礫の撤去をしている映像を見たことです。せっかくなので会社に瓦礫を挟む重機があるので、ぜひ活用したいと思いました。

【社】離れた土地での活動に不安はありませんでしたか。

【小】同じ日本ですし、まったく不安はありませんでした。むしろ、想像を絶する被災状況の中、日本中から集まった若いボランティアや、辛抱強い被災地の方々に学ぶことが多かったのです。

【社】社員の皆様と一緒に活動されたそうですね。

【小】私を含め8名で参加しました。連休返上の提案に、快く協力してくれました。通常の業務もあつたので、全員で参加というわけにはいきませんでした。

【社】どういった経緯で活動に至ったのでしょうか。

【小】4月は現地のボランティアセンター（以下…VC）が重機を使つてのボランティアを募集していなかったため、石巻で炊き出し活動をしていたJICA（※）の仲間に調整を協力してもらいました。6・7月は現地VCと活動を調整してか行きました。

【社】主な活動は何でしたか。

【小】主要な道路は自衛隊が瓦礫を撤去していましたが、路地は手がついていなかったため、避難所で家の周りの片づけを希望する方を探して、立ち会つてもらいながら作業をしました。重機は2機なので、他の社員は手作業で撤去を頑張ってくれました。

【社】活動にあたり、何か手続きはありましたか。

【小】1回目は特に何もせず、活動の調整のみです。2・3回目は現地VCに情報をもらい、ボランティア保険加入と、災害従事車両証明をしてから活動しました。

【社】印象に残ったことはありますか。

【小】建物に入り込んだ車を引き出そうとした時、社員に止められました。中でくもった方がおり、車内に花が供えてあったんです。複雑な思いで家屋や路地からそうした車を移動したのですが、被災地の方から「いつまでも瓦礫があると、次のことが考えられない。ありがと。」と言われた時は、少し安心しました。

【社】最後に、活動を終えて、気持ちの変化はありましたか。

【小】膨大な瓦礫を撤去しながら、その瓦礫の一つ一つに、被災された方々の平和な日々を目的に当たりました。瓦礫は彼らの生活そのものでした。

【社】被災の規模が大きくて、全てが衝撃的で、日本は本当に復興できるのか？とも思いました。しかし、ボランティアの若者や自衛隊、そして被災地救援に関わつた多くの人たちの経験が、これからの日本の大きな力になるだろうと思えました。

【社】お忙しいところ、ありがとうございました。

活動の概略【日時・場所】4月30日～5月9日 石巻市、仙台市
6月16日～6月20日 石巻市、気仙沼市、陸前高田市
7月15日～7月18日 石巻北上、牡鹿半島

【参加者】株式会社箱根緑化社員8名、重機2機

※JICA（ジャイカ）
発展途上国に対する政府開発援助（ODA）や、青年海外協力隊などのボランティア派遣により発展途上国の経済や社会の発展に協力している独立行政法人。

Check!

被災地でのボランティア活動を希望する方へ
被災地でボランティア活動をする方へ、余震によるケガも補償される全社協「天災保険」への加入をお勧めしています。自分のケガだけでなく、活動中に相手の物を壊してしまった時も補償されます。相手への思いやりとしても、保険に加入して活動するようにしましょう。

●加入方法
町社協窓口へ、保険料と印鑑を持ってお越しください。

●取扱時間
平日（土日・祝日は除く）朝8時30分～夕5時15分

《注意!》
すでに全社協「ボランティア活動保険（基本タイプ）」に加入している方でも「天災タイプ」でなければ余震によるケガは補償されませんので、加入し直す必要があります。不明な点は社協までお問い合わせください。

保険料	A	B
基本タイプ	280円	420円
天災タイプ	490円	720円

事務局 だより

はこね社協サービスセンター通所介護がオープンして、早5カ月が経ちました。最初は淋しかった食堂も今では笑い声や歌声が聞こえるようになり、毎日、数名のご利用者様が来所されています。

7月は季節にちなんで、男性職員が笹を用意し、皆様に願い事を書いた短冊を飾っていただきました。「みんなが健康でありますように」「や「平和でありますように」中には「かわいい彼女ができますように」など、それぞれの願い事を短冊に書いていただきました。

その中に、「皆で過ごす楽しいデイの一日が、長く続くように」という願い事がありました。職員一同、介護という仕事に携わつていて良かったなと感じる瞬間でした。

これからも皆様との一日を大切にしていきたいと思えました。(S)

